

# 第 10 章 長期の開放経済モデル

## 応用マクロ経済学 2



教員：奴田原 健悟

<http://www.kengonutahara.com/teaching>

# 第10章のアウトライン

## 第10章の授業でやること

- ① 長期の小国開放経済モデル

## 教科書との関係

- ▶ 「マンキューマクロ経済学I (入門篇)」(東洋経済新報社)の第6章6-2、6-3 (p215~p221)  
(第3版は第5章の5-2、5-3 (p188~p192))

# 小国開放経済モデル

# 仮定 (1/2)

1. \_\_\_\_\_ : 自国は世界市場のごく小さな一部であり、世界の \_\_\_\_\_ には、単独では影響を与えない
2. \_\_\_\_\_ : 自国の住人は、世界の金融市場に完全に自由にアクセスできる (国際間資金貸借が自由)

## 仮定 (2/2)

(小国) + (完全な資本移動)

⇒ 自国の実質利子率  $r$  は (外生の) 世界の実質利子率  $r^*$  と等しくなる

- 
- ▶ 借り手の場合 :  $r$                        $r^*$  でないと、小国の住民は海外から借りればよくなってしまう
  - ▶ 貸し手の場合 :  $r$                        $r^*$  でないと、小国の住民は海外に貸せばよくなってしまう

# モデル：長期の開放経済モデル

長期の閉鎖モデルと同じ仮定：

生産関数：供給サイドで \_\_\_\_\_ が決まる

$$Y = \bar{Y} = F(\bar{K}, \bar{L})$$

消費関数： \_\_\_\_\_ に依存

$$C = C(Y - T)$$

投資関数： \_\_\_\_\_ に依存

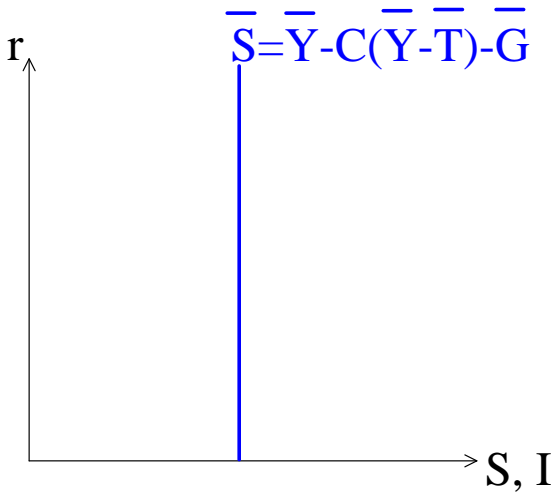
$$I = I(r)$$

財政政策：外生

$$G = \bar{G}, \quad T = \bar{T}$$

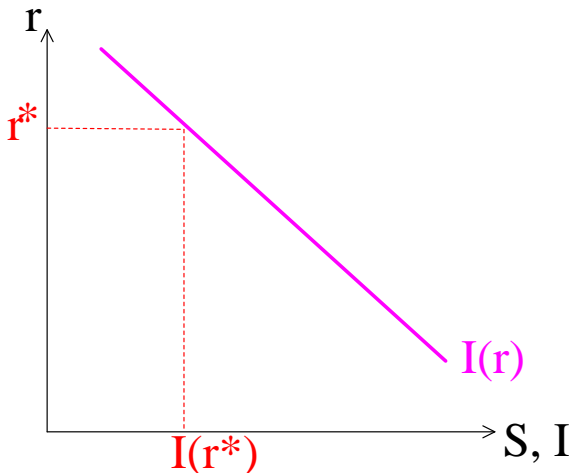
# 貯蓄

(閉鎖経済と同じ)



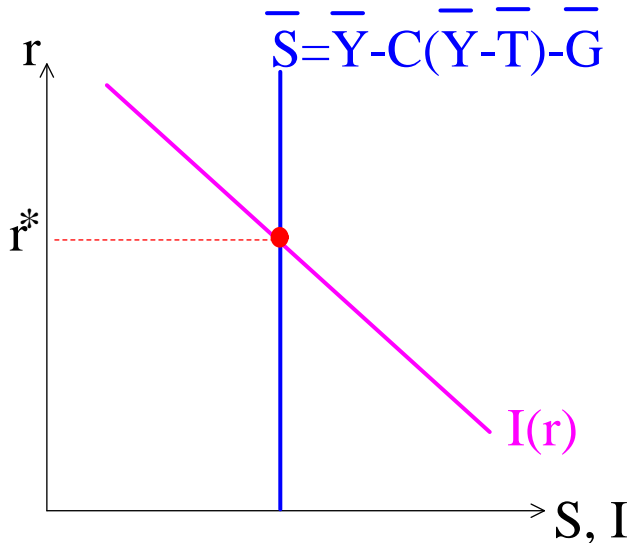
# 投資

$r \uparrow \Rightarrow I$  \_\_\_\_\_、実質利子率は \_\_\_\_\_

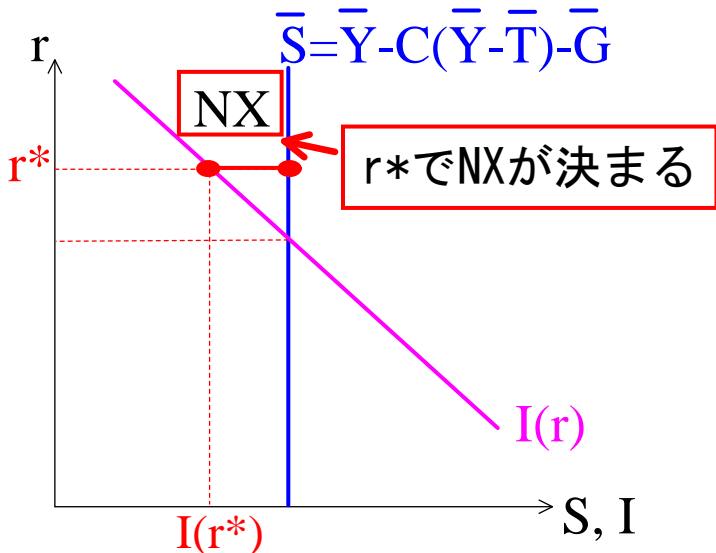




# (復習) 閉鎖経済での均衡



# 小国開放経済での均衡

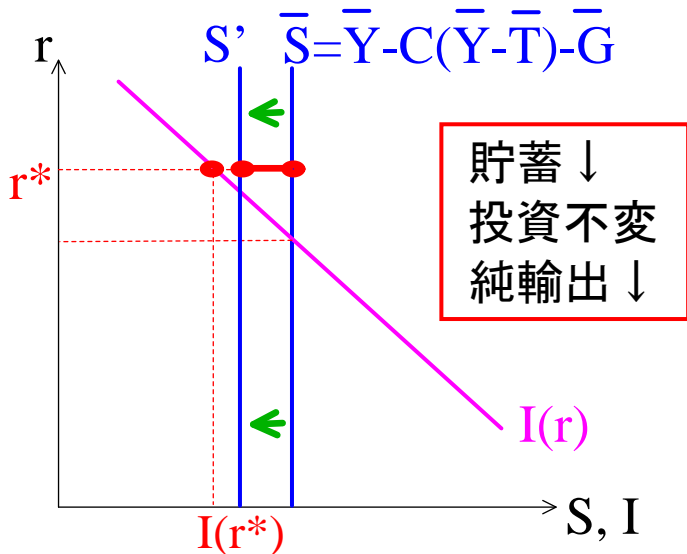


# 政策の効果

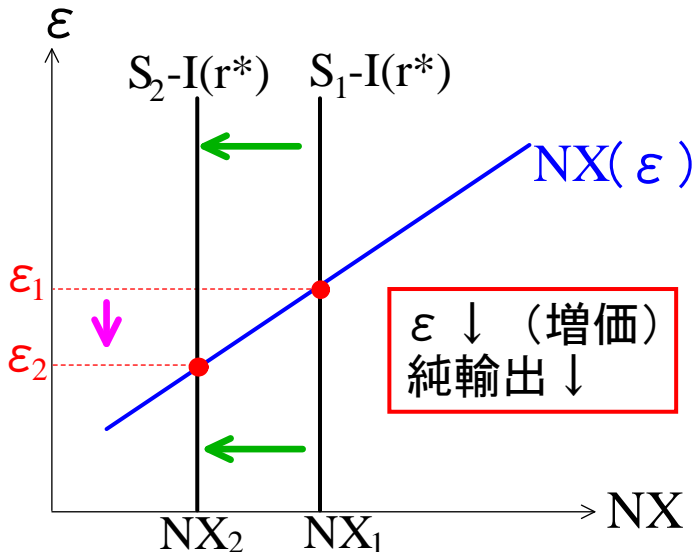
小国開放経済において、以下の効果は  
どうなるか？

1. 自国の財政政策 ( $G \uparrow$  もしくは  $T \downarrow$ )
2. 世界の実質利子率の上昇 ( $r^* \uparrow$ )
3. 自国の輸入規制 (純輸出関数の右シフト)

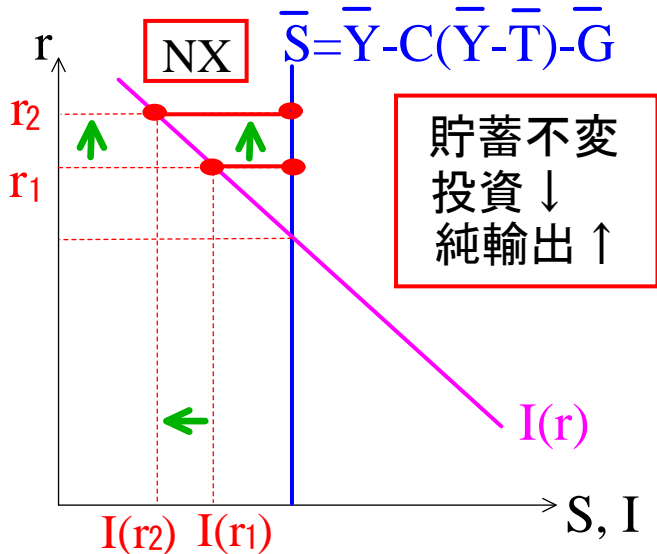
# 1. 自国の財政政策 ( $G \uparrow$ or $T \downarrow$ ) (1/2)



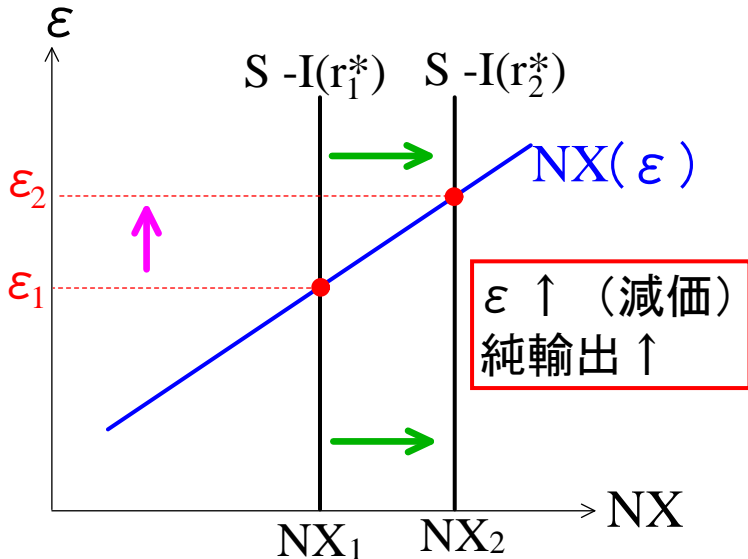
# 1. 自国の財政政策 ( $G \uparrow$ or $T \downarrow$ ) (2/2)



## 2. 世界の実質利子率の上昇 (1/2)



## 2. 世界の実質利子率の上昇 (2/2)



### 3. 自国の輸入規制政策

